

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』 No. 2

代表 古高 利男

☎270-1132

我孫子市 湖北台2-14-7

☎090(7275)9890

活動日

2013, 4, 27~29

第2回活動「のらえもん自然塾 その2」

・・・山村の自然・生活、丸ごと体験

1, 日 時：2013年4月27(土)～29(月)(2泊3日)

2, 天 気：雪・雨→晴れ→快晴

3, 場 所：みなかみ町藤原

4, 参加者：家族10、 内訳 大人 11

中学生 3

小学生 9

幼 児 1

合 計 24

スタッフ4

総計 28

5, 活動の様子

「すばらしい3日間！」の一語に尽きるのです。それは、ここ藤原の自然と人々が「あたりまえ」の演出をしてくれたからでした。あるがままの姿を与えられる・それを体験できることの「あたりまえ」のなんと美しいこと・すばらしいこと・奥深いことに、参加者一同は心を洗われる思いで、会員同士の親交もおおいに深められました。

以下に、そのときの様子をまとめてみました。

○ 晴れ曇り雨のち雪の上ノ原四月の雪に子らは歓喜

○ 登りつめははその泉看板に熊がかじった新しき跡

○ ブナ・ナラの間をすすむ木馬道(キンマミチ)黒文字の花が我らを迎える

○ しんしんと降る雪の上ノ原茅文化の芽は眠りおり

○ 雪だるま作ってはしゃぐ子どもらは未来日本の宝の人・ひと

東京を出発したとき、3日間の晴天を誰しもが疑わなかったのです。が、JR水上駅前に集合したとき、くもり時々雨でした。土産物店の女主人は「3月は暖かくて、4月になると寒い日が続いたよ。桜は、今頃だね。」と、語ってくれました。

森林塾青水の清水様が、案内役として喜んで参加してくれました。途中、藤原ダムを見学したり水守の像の前で藤原集落の話しをうかがいながら、まずは御宿「関ヶ原」に集合しました。車5台で、今度は森林塾青水のフィールドである上ノ原に向かいました。宿は雨でしたが、宝台樹スキー場付近では雪交じりになり、上ノ原(標高1050メートル)に到着すると辺り一面は5～6センチの真っ白い雪に覆われていました。「エー、雪ー!」「4月で、雪なんて!」と、みんな大はしゃぎでした。早速、雪だるま・雪合戦で戯れました。

雪に怖じけて退散する「のらえもん」ではありません。上ノ原の散策路を歩き始めました。やがて、「はその泉」の立て札のあるところに到着しました。立て札は「熊がかじった」ということで、ほぼ半分が無くなっていました。ここは十郎太沢の源流で、下流の民宿の上水道にも利用されているとのこと。コナラ・ブナ・ミズナラが醸した「はその泉」を味わってから、雪の木馬道(きんまみち:木を切り出し運んだ道)を歩きました。黒い肌で黄色い花をつけたクロモジの木が所々にありました。やがて視界の開けた草原にでると、なぜかホットしたのは私だけでしょうか?

雪は、しんしんと降っていました。

○ 上ノ原義勇軍の夢のあとケベネックにキクイモもあり

気温は6℃です。冷えた体に、お風呂はとても気持ちよい気分になりました。6時からの夕食は、中学生になったばかりの三美さんと千花さんの「いただきます」で始まりました。晴れ・曇り・雨・雪

のドラマを演出してくれた気象現象に、話と箸はすすみました。

夕食が一段落したところで、宿の女将さんとの話の中で、「昔、上ノ原の茅場を耕して、ジャガイモやキクイモを植えたことがあった」と言われました。資料（森林塾青水：上ノ原「入会の森」管理マニュアル、平成23年3月）によりますと、「1943年（昭和18年）頃、義勇軍によるジャガイモ、カライモ（キクイモ）栽培など」とあります。ジャガイモは「ケベネック」という種類で、「寒さに強く大きくなる」ものでしたが収穫量が少なく味もよくないため、「だんだん作られなくなった」ということでした。キクイモは、今でも上ノ原の茅場で時々見かけます。私の生まれた北海道にもキクイモは生えていましたが、食べたことはありませんでした。

想像するに、「戦争の真っ最中で食料がだんだん不足してきたため、地域の方々がお国のためにも義勇軍という名の組織をつくって食料の増産に励んだ」というのはいかがでしょうか？

地元の方々の話を聞いていると、一つ一つの言葉に深く重い時間の流れを感じさせてくれます。と、ここまで書いてから、インターネットでも調べてみました。すると、「アメリカで交配され、1948年『kennebec』と命名公表」とあります。さらに、「GHQ よって日本に持ち込まれ、1954年（昭和29）寒冷地で試験栽培され、1961年にピーク後、だんだん栽培されなくなった」とあるのです。藤原という地名は出てきません。ここで時間的なズレが出てきた理由は何なのでしょう？次回、藤原を訪問したときには、この点をもう少し調べてみたくなりました。

- 杉林過ぎて白肌ブナの木々天に向かって直立不動
- 落ち葉踏み青木の沢の峠道壇香梅が迎えてくれる
- 白き肌ルーペの中に文字姿ブナに住み着く地衣の仲間たち

2日目は師入（もろいり）集落の地藏堂付近から青木沢峠（880^m）へ向けての自然散策です。案内人は、ここに住まいを構えた北山さんです。

集会所の駐車場に車を止めて歩いていくと、道の両側には放棄地が広がっていました。クズがびっしり生えていた痕跡を残しています。「もったいない！」という思いでした。まもなく、杉の切り株があり、年輪を数えてみました。50年は経っているようです。ここから、いよいよ林の中の道になります。やがてクリやミズナラがあらわれ、ブナの二次林になってきました。ブナを見上げると「美しい！」という言葉がピッタリです。ブナの白い肌とどんな斜面でも天に向かって伸びている姿を見ると、威厳すら伝わってくるようでした。近づいてルーペを取り出すと、地衣類が沢山付着しています。鳥の肌のようなものやへこの字のようなものもありました。地衣類とは、菌と藻類とが共生しているもので、ブナには何も悪さをしていないということです。むしろ、空気のきれいな所にはたくさんの地衣類が付着するというので、環境のパロメーターになっています。

落ち葉の音を聞きながら歩いていると、黄色い花を咲かせた壇香梅がたくさん道案内してくれました。その先に、青木沢峠がありました。1本の大きな赤松が太い根を2本出して、稜線をかかえているのでした。根元には「十二様」の石碑があります。かつては、毎月12日にお供えをするのが習わしかったそうです。

- 沢のそばオオウバユリの根を食べて縄文人は生きたという
- 沢水の岸辺の草に卵ありサンショウウオの命の泉

集会所の近くに、桂の泉があります。冷たくきれいな清水が湧き出ています。この泉にはヒダサンショウウオがいるということでした。探してみると、いました。小さな赤ちゃんです。岸辺の草むらには、白っぽい卵も見つかりました。湿った土からはたくさんのオオウバユリの芽が出ていました。北山さんの説明によると、縄文の人々はこの根茎を食料として利用していたということでした。

- 911メートルの雨呼山（あまよびやま）に立つのらえもん27人の親子
- 藤原を俯瞰する雨呼山に十二様が鎮座しており
- 田植えには龍を呼び稲刈りには龍を縛る雨呼山

民宿関ヶ原の裏手には、名倉川をはさんで雨呼山（911^m）があります。村の中央にあり、日照りが続き田畑の水が不足したとき、山に登って雨乞いをしたという信仰の山。ときには、雨が降りすぎて困ったときには、雨をもたらず龍を縛ってしまったという。その縛られ龍の彫刻が、雨呼山の真下にある慶永寺に飾られているということです。

- 古民家を背にして立てば一畝田（ひとつせだ）スイセン咲かせ耕作を待つ

地区の名前が一畝田で、ここでは4軒の農家が稲を作っていたようです。収穫した米は沼田藩の殿様

に献上されたので、ここの田んぼは「殿田」と言われていたと伝えられています。この地区の一番高い所に古民家があり、今、その修復にのらえもんも参加しています。ここから見下ろす田んぼとその先にある山々の風景は、気持ちをうっとりさせてくれます。あぜ道には沢山のスイセンが咲き、虫や人を呼び、早く田んぼを耕作してくださいとせがんでいるようでした。

- ゲレンデでふきのとう探すのらえもん心は早るふきみそづくり
- 鉄鍋にみそを入れてかき混ぜる砂糖に油ラストはふきのとう
- 空きビンにふきみそ入れて持ち帰る山の恵みの手作りの味

今年は暖かく、ふきのとうはすでに大きく成りすぎていました。標高の少し高いスキー場へ向かいました。葉の開いていない良さそうなふきのとうを、たくさん見つけました。民宿に戻り、手分けして洗う・切る作業をしました。いよいよ火入れです。民宿で、薪ストーブを用意してくれていました。薪ストーブは料理の味をいっそう引き立ててくれるのです。鉄の平鍋にみそを入れ、砂糖と油を加えてかき混ぜます。全体がなめらかになり、湯気がどんどん立って来る頃、細かくきざんだふきのとうを入れます。ふきのとうに火が入れば終了です。かき混ぜながら、時々味見をすると、ふきのとうのちょっと青臭いながみとともに春の香りがプ〜ンと広がってきました。完成です！

調理人は、もちろん山口シェフです。それを補佐するのは、細かいところにまで気の付く春日さんです。名コンビです。

「できたヨ〜！」空ビンを持って集まってきてくれました。家庭の食卓を、山村藤原の恵みで、きつとにぎやかにしてくれたことでしょう。

- 藤原の小川に立てばせせらぎに釣り糸を垂れ岩魚を釣る
- 溪流に生きる岩魚を釣り上げて朝の食事で報告をする
- 炭火にて2匹の岩魚焼き上がり一口かじりまた次の人

早朝、山口さんと岩魚釣りに出かけました。民宿のすぐ近くの小さな川です。「こんな小川に、いるの？」と勝手に思います。昨日は、水量豊かな名倉川で糸を垂れてみたのですが、私たちの装備では歯が立ちませんでした。

小さな淀みにミミズをそうっと流して、ヒョイと上げると、形のよい岩魚が釣れていました。それを、朝食のときにみんなに見せ、昼食のバーベキューのときにはじっくりと炭火で焼き上げました。28人もいるのに、岩魚はたったの2匹です。私が持って、一口ずつかじってもらいました。「口を大きく開けないで！」と願いながら、二人目、三人目と回っていきました。たった一口なのに「うまい！」と、誰しもが声を上げました。私も、お腹の方を一口かじりましたが、今でもあのときの味を思い出します。

・・・親と子の生き生き感想・・・

- *ゆきのなか、やまをのぼって、たのしかった。
*ろてんぶろが、きもちよかった。
*ばあべきゅうの、おにくがおいしかった。
*くうちゃんと たくさんさんぽ たのしいな 鹿浜小1年
◎3日間、とても盛りだくさんでした。雪原の強行軍、ハプニングが楽しい！藤原集落を盛り上げている清水さんのお話も、とてもためになりました。 父
- ぼくは、山登りはつかれたけど、雪合戦は楽しかったです。ほかにも、ゲームをしたりして、おもしろくなりました。
*山のぼり 雪合戦だけ おもしろい 鹿西小5年
- 1日目はすごく寒くて、雪がふっていました。けれど、山を登ったので、すごく暖かくなってきました。山道の途中、おしっこのような色が雪についていたので、何だろうと思いました。鹿をみたかったです。2日目は、川を上ったり、古民家にいったりしました。つかれました。3日目は、バーベキューが楽しかったです。
*2日目に 友といしょに 川上り
*いっぱいね カエルとイモリが いたんだよ
*星座がね いっぱいあって きれいだな 鹿浜中1年
◎もりだくさんの3日目でした。山散策、雪山登り、古民家を見、崖も登ったような？星の観察では、流れ星や星座を見、温泉もとても広い所に行きました。どれも貴重な体験となりました。大変

楽しかったし、学びとなりました。

*雨を呼ぶ 龍のねむる 山のぼり 母

- 山にのぼって、つかれました。おんせんに、虫がいました。つくしがいっぱいありました。

*おれさまは つくしをとった いっぱいだ 上沼田小2年

- たくさん友だちができました。たのしかったです。山のぼりが、めんどくさかったです。

*山のぼり 友だちたくさん たのしいな 上沼田小6年

◎初の2泊3日で、色々な体験ができて、参加して良かったです。雪に出会え、直人も雅人も楽しんで、いい思い出になったと思います。山登り、キャンプ、がんばります！

*のらえもん 盛りだくさんの みなかみだ！

*古民家で 仕事するのは 子どもたち 母

- きょうの山のぼり、とてもつかれました。でも、山のとっぺんについたら、とてもけしきがきれいでした。また、行きたいです。

*山のぼり とてもつらくて たいへんだ 栗原北小5年

- たのしかった。 しみず保育園4才

- 二はく三日で、ぐんまにとまって、山にのぼりました。ほかにも、おふろやこみんかにいき、とてもたのしく三日をすごせて、うれしいです。また、いきたいです。

*おふろいき こみんか行って おてつだい 鹿浜第一小3年 ひらまつ けんと

◎「山が笑う」水上は、豊かでした。たった三日で、冬から春を十分体験できました。ダンコウバイ（壇香梅）・熊棚などなど、初めて知ることがたくさんありました！嬉しいです。

*山笑う 豊かな自然に みんなも笑う 母

- いまのじき（4月27日）に、雪がふるとは思いませんでした。雪がふったときにはびっくりしました！！雪や雨などがふって、少し大変だったけれど、最後の日に晴れてよかったです。バーベキューがおいしかったです！！

*バーベキュー いろいろあって おいしかった 横浜 上末吉小6年

- 山を登るのが大変だったけど、頂上の景色がきれいだったので、よかったです。

また、来たいです。 第七中1年

◎ダンコウバイ（壇香梅）・ショウジョウバカマ・ミズバショウ・ブナ・ミズナラ・アカマツ・カケスヤトカゲ、盛り沢山で楽しかったです。雪から初夏のような気候まで天気が変わり、着る物を考えることが、やや大変でした。が、それも面白かったです。 父

◎スキー以外で雪の山道を歩くのは、初めてです。それも4月の下旬に！「古民家再生」のすぐ近くの朽ち果てた古民家に、動物の骨があったのは衝撃的でした。壇香梅・胡延索（エンゴサク）・ショウジョウバカマ等々たくさん植物との出会いがありました。いつも数々の楽しい「初めて」を体験することができる「のらえもん」に感謝です。

*たくさん 春を感じる 露の香に 母

- とても大きい温泉で、とてもビックリしました。とても熱い所もあったけど、とてもぬるい所もありました。とても気持ちよかったです。とても水がきれいだったので、感動しました。

日本一 大きいおんせん 最高だ！ 上沼田小5年

◎初日の大雪には驚きましたが、この時期にはめずらしく、いい経験ができました。娘が友だちと一緒に古民家の周囲を走りまわっている姿を見られて、遊具がなくても、子どもって遊べるんだなあと、ほほえましくなりました。

*やまのなか げんきに走る 子どもたち

*春なのに 大雪のなか やまのぼり 母

- この3日間で、最初の2日は雨が降っていて大変だった。けっきょく、クレヨン、使わなかった。（静電気の）実験上手く行って、たのしかった。

*3日間 山ばっかのぼって つかれたぞ！

*奈良俣ダム 水がいっぱい たまってる

*川上り ながしっ葉を たのしんだ

*かえるさん たまごがいっぱい きもちわるい 鹿浜中1年

- ゆきで、あそんだのが、たのしかったよ。山のぼりが、めんどくさかった。また、（北山）かずくん と、あそびたい。 鹿西小1年